

○太田 剛・田中雅也¹⁾・堀田雄一郎²⁾・馬場武志・梅田剛利・佐藤健次³⁾
 (福岡農総試・¹⁾筑後農林事務所・²⁾北筑前農改・³⁾九州沖縄農研)

【目的】

九州地域に適した飼料イネは晩生品種が多いため、裏作に栽培するイタリアンライグラス（以下イタリ）は播種時期が遅れ、収量が低下しやすい。

そのため、低温伸長性の高い飼料麦単播あるいはイタリとの混播を行うと、イタリアン単播より収量性が高いことを現地の水田で実証した。

また、福岡農総試内で収穫したサイレージを用いて、乳牛による嗜好性についても検討した。

【材料および方法】

現地実証には飼料イネ収穫後の水田を用い、柳川市では2004年11月12日に、須恵町では2005年11月8日に播種した。筑紫野市の福岡農総試内にも2005年11月2日に播種した。

試験区は大麦・イタリアン混播区、エン麦単播区とし、対照に県内で最も栽培の多いイタリアン単播区を設定した。播種量は、単播区、混播区とも麦類は7kg/10a、イタリアンは2kg/10aとした。1番草の収穫調査は大麦・イタリアン混播区とイタリアン単播区では4月18～20日に大麦の乳～糊熟期、イタリアンの出穂期で行い、2番草は5月23～31日にイタリアンの出穂期で行った。エンバク単播区は5月10～16日に乳～糊熟期で収穫調査し、

1回刈りとした。

また、場内で栽培した大麦・イタリアン混播、エンバク単播、イタリアン単播の1番草はラップサイレージに収穫調製し、3ヶ月程度保存した後に開封し、サイレージ品質及び乳牛2頭を用いたカフェテリア法による嗜好性を調査した。

【結果および考察】

1, 2番草の合計乾物収量は大麦・イタリアン混播区がいずれの場所でも最も高かった。エン麦単播は1回刈りでもイタリアン単播の2回刈りと同等以上の高収量であったが、いずれの場所でもやや倒伏が見られた(表1)。

また、大麦・イタリアン混播サイレージはイタリアン単播サイレージと比べ、乳牛による嗜好性は優れたが、一方、エン麦単播サイレージはイタリアン単播サイレージと比べやや劣った(表2)。

以上の結果、飼料イネの裏作として栽培するには、収量が高く、嗜好性の優れる大麦・イタリアン混播が最も適していた。一方、エンバク単播はやや嗜好性が劣り、倒伏しやすいが、1回刈りでも収量が高いため、省力的であるとともに栽培期間が短く、次の飼料イネ作付準備に余裕がある利点があった。

表1 実証栽培における乾物収量 (kg/10a)

播種年	場所	試験区	面積	1番草			2番草	合計
				麦	イタリ	計	イタリ	
2004	柳川市	大麦+イタリ	20a	430	297	726	371	1097
		エンバク	20a	904	-	904	-	904
		イタリ(対照)	20a	-	484	484	374	858
2005	須恵町	大麦+イタリ	38a	495	202	697	388	1085
		エンバク	10a	978	-	978	-	978
		イタリ(対照)	28a	-	444	444	433	877
筑紫野市	筑紫野市	大麦+イタリ	8a	701	247	978	359	1307
		エンバク	16a	1206	-	1206	-	1206
		イタリ(対照)	8a	-	792	792	453	1245

表2 乳牛による嗜好性 (カフェテリア法) (乾物kg/日・頭)

	1期		2期	
	大麦・イタリ	イタリ	エンバク	イタリ
試験牛1	10.7(96)	0.5(4)	1.5(16)	7.6(84)
試験牛2	10.5(99)	0.1(1)	2.8(35)	5.1(65)
平均	10.6(97)	0.3(3)	2.1(25)	6.4(75)

注) 1. 濃厚飼料は要求量を充足するように別給与
 2. ()内は粗飼料採食量に占める割合%
 3. 給与したサイレージは表1のサンプルとは異なる